

地域活性化伝道師プロフィール		分野	地域産業・イノベーション・農工商連携		農・林・水産業	◎
			地域医療・福祉・介護、教育		観光・交流	
			地域コミュニティ・集落再生		環境	
			地域交通・情報通信		まちづくり	○
ふりがな		はやし ひろし				
氏名		林 浩志				
所属	名称	一般財団法人 漁港漁場漁村総合研究所				
	役職	第一調査研究部 次長				
連絡	住所	(公開)	〒 101-0032			
			東京都千代田区岩本町 3-4-6			(職場)
	連絡先	(公開)	E-mail hayashi[アットマーク]jific.or.jp			
			(公開)	TEL 03-5833-3223		FAX 03-5833-3226
連絡方法		E-Mailでお願いします				
略歴		<p>昭和 60 年 4 月に民間の建設コンサルタントに就職。その後、平成 13 年 7 月より現在の一般財団法人漁港漁場漁村総合研究所に勤務。主に研究所では、漁港や漁業地域の振興計画などに携わる。一方で漁港を中心とした水産物の品質衛生管理についても取り組んでおり、平成 19 年に水産庁から通知された「漁港における衛生管理基準について」の策定に係わる水産庁の調査委託(平成 18～20 年度)を担当。平成 24 年度は、水産物フードシステム品質管理体制構築推進事業のうち産地市場品質・衛生管理検討委員会 委員、平成 23 年度では三崎漁港[本港地区]衛生管理協議会対策検討作業部会 部会長、ならびに、マグロ荷捌き作業改善研究会(鮫子漁港)メンバー、その外、長崎漁港、枕崎漁港、気仙沼漁港、石巻漁港の高度衛生管理に関する調査など、水産物の高度衛生管理と高度衛生管理を通じた水産物のブランド化等による地域の活性化に向けた研究等を行っている。</p>				
著作・論文等		<p>都市漁村交流推進に資する組織形成に関する考察(海洋開発論文集 第 29 巻 2004)、都市漁村交流活動の実態と振興のための課題について(海洋開発論文集 第 29 巻 2004)、海洋深層水を使用した漁港の衛生管理の計画とその効果について(海洋開発論文集 第 30 巻 2005)、衛生品質管理と水産資源の持続的利用に向けた漁港整備に関する研究(海洋開発論文集 第 33 巻 2008)、漁港で利用される海水の細菌学的調査(日本水産学会誌 2010)、漁業地域の水産関連施設の被災の実態等を踏まえた一考察(地域学研究 Vol.4</p>				
取組概要		<p>近年の食品に関する様々な問題、O-157 や産地偽装など食品の安全・安心に対する不安が高まっている。一方、忙しい社会生活、長引く不景気、ファーストフードやコンビニエンスにより家庭で料理をしない人々が増えてきている。さらに、魚介類についてはその数はより多い。このため、わが国が培ってきた食の文化が薄れ、食育(魚食)といった活動が行われてきている。このような状況にあっても家庭や外食・中食産業、食育の場へ安全で安心な水産物を提供するには、やはり漁港での衛生品質管理は重要あり、ここで品質が低下した魚介類は、その後回復することはない。このようなことから、水産物の衛生品質管理を軸に水産物の提供と一体となった地域づくりに取り組んでいる。</p>				

※ 公開できる情報のみ掲載しています。

※ 依頼・相談等に伴う謝礼等条件につきましては、双方協議の上、決定してください。

※ メールの送信は、[アットマーク]を@に置き換えて行ってください。

登録期間 令和 6 年 10 月 1 日～令和 7 年 9 月 30 日

メッセージ	食べることは生きることであり、食材がもつ本来の甘味、酸味、塩味、苦味、うま味、そして、香りを感じられることが食べることの喜びであり、生きる希望であると思っています。このようなことを考えながら食材としての水産物、そして、安全で安心な水産物の提供について活動しています。		
関連ホームページ	http://www.jiflc.or.jp	活動エリア	全国

※ 公開できる情報のみ掲載しています。

※ 依頼・相談等に伴う謝礼等条件につきましては、双方協議の上、決定してください。

※ メールの送信は、[アットマーク]を@に置き換えて行ってください。